

宇治市観光案内サイン整備ガイドライン

(素案)

2016.02.05.

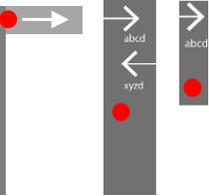
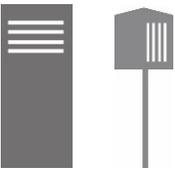
1. サインシステム	1) 計画するサインの種類	3
	2) 案内, 誘導パターン	4
2. 配置計画	1) 配置の考え方	6
	2) 配置の基準	7
	3) 配置の「方向」の考え方	8
3. 情報計画	1) 情報量のコントロール	10
	2) 多言語対応	12
	3) 表記の基準	14
4. デザイン	1) 基本的な考え方	17
	2) 整備手法	18
	3) 整備の方向性	19
	4) デザイン案	22
	5) リノベーションデザイン	26
	6) 表示デザイン	31
5. 整備モデル	1) モデル地区整備計画案	34
6. 運用計画	1) ガイドラインの運用	40
	2) 検証と振り返り	41
	3) サインのメンテナンス	42

1. サインシステム

サインシステム

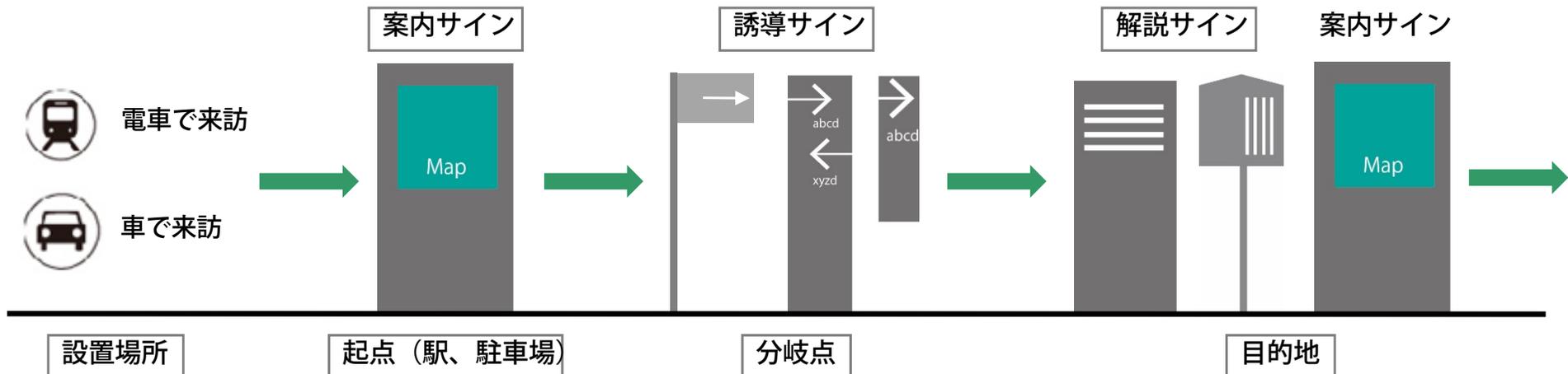
1) 計画するサインの種類と基本となるシステム

本サイン計画において対象とするサインの種類、基本システムを以下に整理する

サインの種類	基本の掲載情報	必要に応じて掲載する情報
地図系  案内サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の案内地図 (付近) ● 方位 ・現在地 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺著名地点の誘導
矢印系  誘導サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の著名地点 ・周辺の公共交通 ● 方位 	
記名系 解説系  解説サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・施設名称 ・解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺著名地点の誘導

●基本となるシステム

サインによる案内、誘導の流れ



サインシステム

2) 案内, 誘導のパターン

サインの案内, 誘導パターンを以下に示す

- 公共交通拠点（鉄道駅）周辺の案内サインで、現在地、方角、目的地との位置関係を大まかに確認する。

*案内サインの情報と手元マップあるいはスマートフォン等の情報とを確認する。



- ルート上の分岐点で誘導サインと手元マップを確認しながら目的地を目指して移動する。

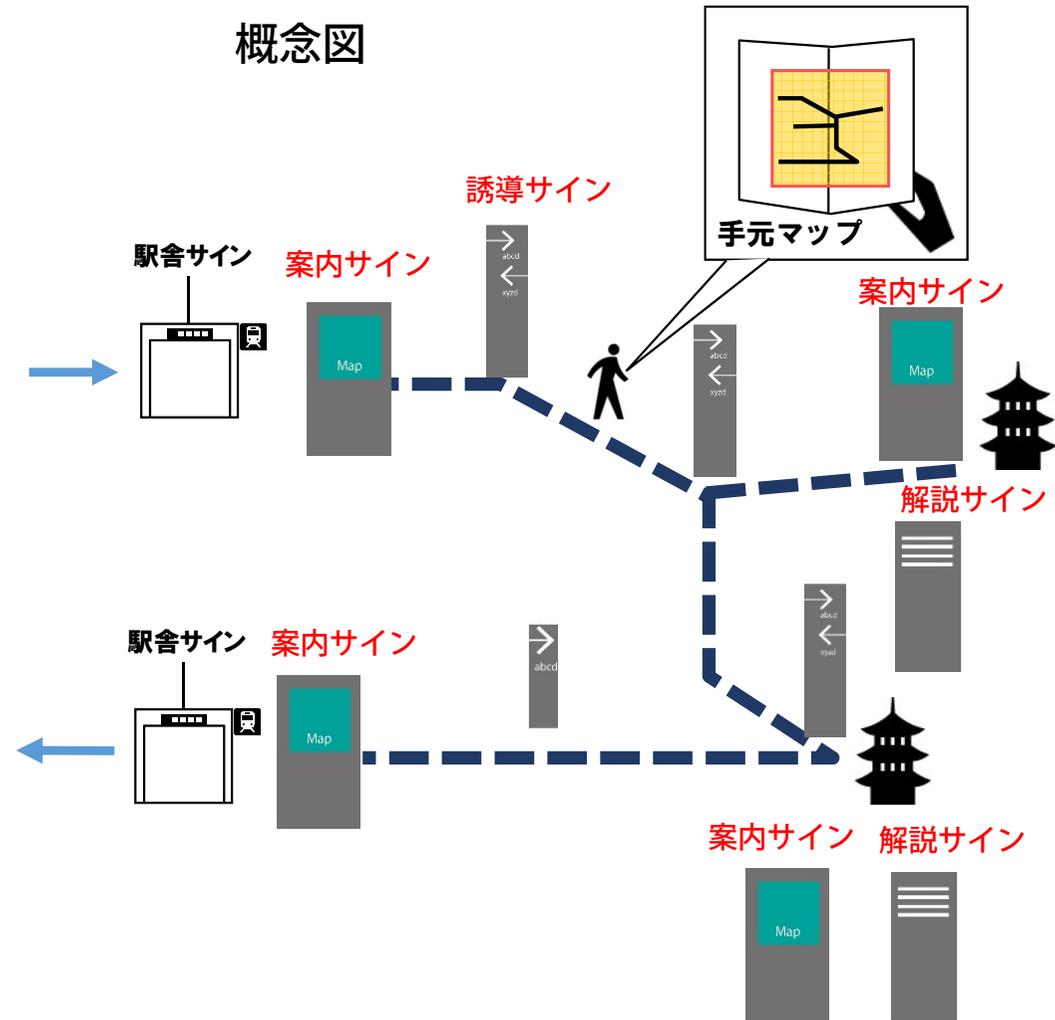
*手元マップに案内サインの位置をプロットすることで、利便性が高まる。



目的地

- 解説サインやwebから情報を得る。
- 目的地周辺の案内サインを確認し、次のルート（目的地）を目指す。

概念図



*基本的に手元マップあるいはスマートフォン等の情報端末はほとんどの観光客が持っていると考えられる。

2. 配置計画

1) 配置の考え方

利用者にわかりやすいサインの配置について以下の考え方を示す

●過剰な配置を避ける

- ・既存サインを整理、統合し、最小限必要なサイン配置とする。

●利用者が多い場所に必要な情報を配置

- ・公共交通拠点、主要な交差点、著名地点などに配置する。

●情報が途切れない配置

- ・主要なルートにあっては情報の連続性を確保する。
- ・散策するまちなかエリアでは最小限必要となる箇所に配置する。

●配置のルール化 (○○には○○の情報が必ずある)

- ・最初の一步となる地点には案内サインあるいは誘導サインがある。など。

●景観に配慮した配置

- ・まちなみや自然、歴史的景観を阻害する配置としない。

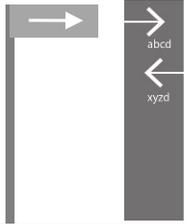
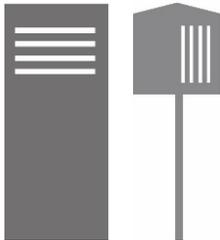
●ユニバーサルデザインに配慮した配置

- ・誰にでもわかりやすく、見やすい配置とする。

配置計画

2) 配置の基準

情報の配置基準を以下に示す（案内サイン・誘導サイン・解説サイン）

種類	設置場所
<p>● 案内</p> 	<p>地図系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の起点 ・主要な交差点 ・目的地（主要な観光地）
<p>● 誘導</p> 	<p>矢印系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の起点 ・主要な交差点 ・主要なルートの分岐点 ・まちなかエリア、源氏・大吉山エリアのポイント
<p>● 解説</p> 	<p>記名系 解説系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（主要な観光地） ・まちなかエリア、源氏・大吉山エリアの歴史スポット

配置の概念図



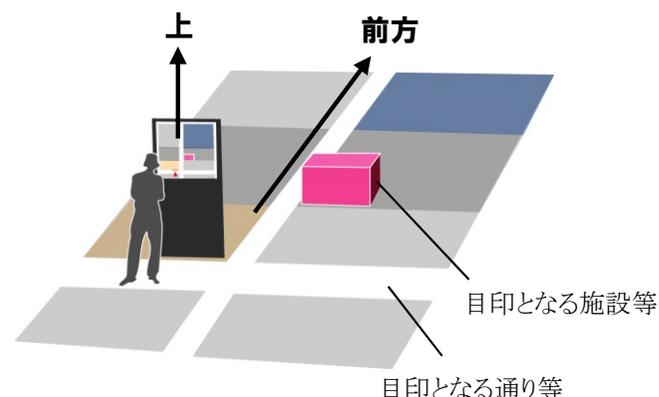
まちなかエリア ●案内サイン ●誘導サイン ●解説サイン

配置計画

3) 配置の「方向」の考え方

案内サインおよび誘導サインの配置の「方向」についての基準を以下に示す

案内サイン地図の表示方向

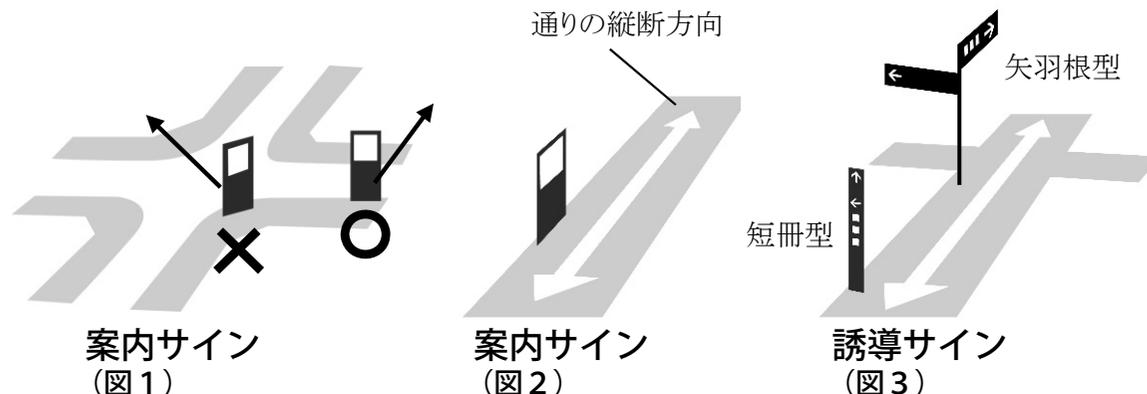


- 案内サインの地図は、実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

理由；

- 地図表記（2km四方程度）では、目印となる施設や通りと地図を見比べやすい。
- 自分の立っている方向と地図の方向が一致しているのでわかりやすい。

サインの設置方向



- 交差点部での案内サインの設置向きは、斜め配置としない（通りと平行に設置する）（図1）

理由：通りとの関係があいまいとなり、方向感覚がつかみにくい

- 案内サインの設置向きは、通りの縦断方向に対して水平に設置する（図2）

理由：設置スペースを確保しやすい（歩道幅員を減じない）

：直近の通りとの位置関係がわかりやすい

- 誘導サインは、矢羽根型は表示板面を目的地の方向に向けて設置する。

ただし通りの中間点等設置場所の状況に応じて直交に配置することもある。

短冊型については通りの縦断方向に対し直交して設置する（図3）

理由：矢羽根型～直接目的地を指し示すため、直感的にわかりやすい

：短冊型～表示が歩行者の目に入りやすい。両面表示が可能

3. 情報計画

情報計画

1) 情報量のコントロール（表示内容，配置）

サインの表示の情報量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

考え方

表示内容はわかりやすさを優先して
情報量をコントロールする

情報の優先順位を明確にする
その場所で一番重要な情報を絞り込む



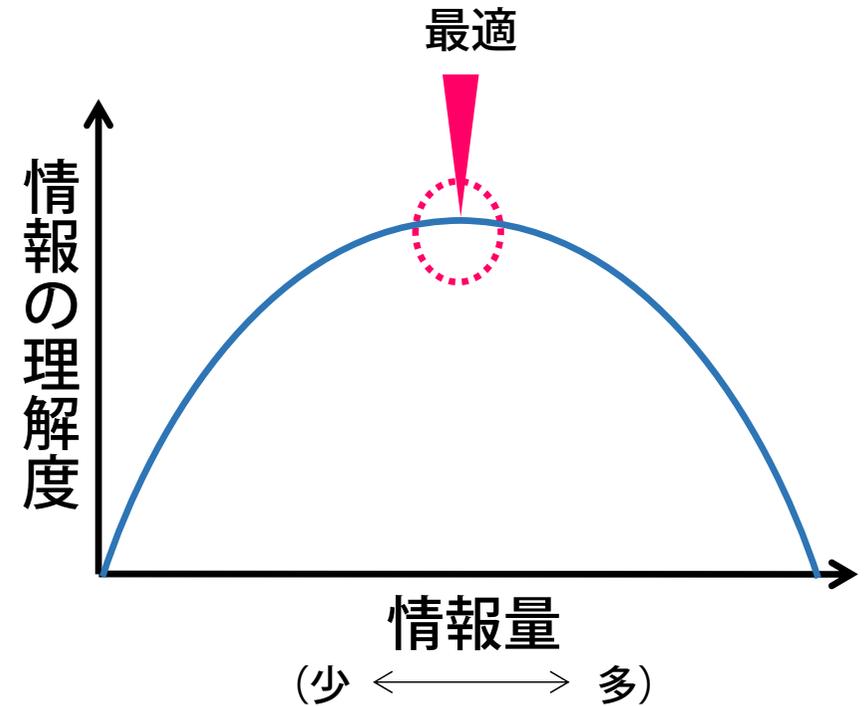
- ・情報量の補完
- ・情報の理解を促す工夫

最適な場所での情報配置

- ・起点となる場所で最初の一步を促すサイン等、
利用者の目線に立った情報提供

表示のグラフィックデザインの工夫

- ・統一的なデザイン
- ・ピクトグラム等の図や記号を活用
- ・文字の大きさやレイアウトのメリハリ
- ・ユニバーサルデザインに配慮した配色



各種の媒体を用いて相互に補完

- ・手元マップやデジタル情報との連携
- ・QRコードを利用した多言語翻訳システムなどの活用

情報計画

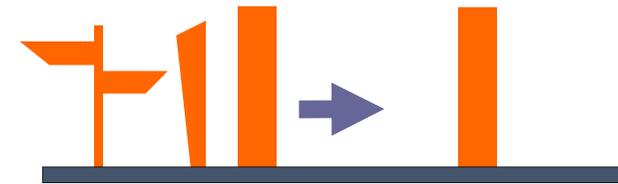
1) 情報量のコントロール (数量)

各種サインの数量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

考え方

●既存のサインで情報提供が過剰な場合は，不要なサインを撤去する

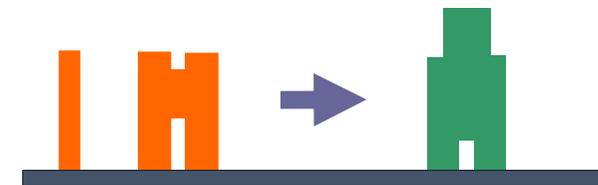
撤去



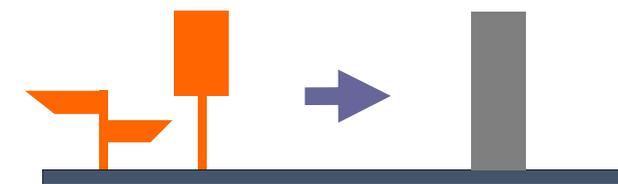
●情報を集約する

- 既存サインをリノベーションすることで、情報の集約化を図る。
- 複数の既存サインを新設サインに置き換えることで、情報の集約化を図る。

集約



既存サインのリノベーション



複数の既存サインを新設サインに置き換え

■ 既存サイン ■ 改修サイン ■ 新設サイン

2) 多言語対応

多言語対応については表示面の大きさと情報量とのバランスを考慮し、以下の方針を立てる

対応言語の考え方

多言語対応は原則2か国語表記（日本語・英語）とする。

誘導表記など情報量が限定されているものについては、4か国語または5か国語表記も検討する。

*4か国語（日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングル）、5か国語は中国語の繁体字が加わる。

●メリット/デメリットの整理

	メリット	デメリット
2か国語表記 （日本語、英語）	<ul style="list-style-type: none"> 4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語に不慣れな人には情報が理解できない場合がある。
2か国語+最小限の外国語表記 （日本語、英語+その他の言語）	<ul style="list-style-type: none"> 4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。 最小限の表記でも、その国の人にはわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> その他の言語を何にするかの判断が必要。 設置場所によって、その他の言語を使い分けるとすると、地域によって外国語表記に違いがでてしまう。
4か国語表記（5か国語表記） （日本語、英語、中国語、ハングル） * 宇治市は台湾系の観光客が多いため、中国語は簡体字と繁体字を使用する。	<ul style="list-style-type: none"> 近年来訪者が多い中国系、韓国系の観光客に対して母国語で情報提供できる。 もてなしを受けている満足感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> サイン表示が煩雑、且つ文字の大きさが小さくなる。特に日本人にとってわかりにくい。 翻訳の内容チェックなど、制作の難易度が高い。

—参考資料—

「公共交通機関における外国語等による情報提供促進措置ガイドライン」（国土交通省H18）

案内標識により情報提供を行う場合には表示するスペースに限りがあるため、日本語に加え、代表的な言語である英語と、視覚により情報伝達が可能なピクトグラムの3種類を用いた情報提供を行うことを基本とする。

英語表記の方法

国の基準に基づき、固有名詞はローマ字、普通名詞は英語で表記する。

*「観光活性化標識ガイドライン」(国土交通省 H17)

寺院・神社など観光施設等の名称はすべて固有名詞として扱う。

●表示の例

表示対象		表示例
山・川	大吉山	Mt.Daikichi-yama
	宇治川	Ujigawa-River
鉄道駅	京阪宇治駅	Keihan Uji Station (Sta.)
通り名	県通	Agata-dori Street(St.)
観光集客施設	平等院	Byodoin Temple
	宇治上神社	Ujigami-jinja Shrine
	源氏物語ミュージアム	The Tale of Genji Museum

—参考— 英語表記の方法

A. ローマ字 + 英訳 Ujigami Shrine

B. ローマ字 + ローマ字 Ujigami-jinja

● C. ローマ字 + ローマ字 + 英訳 Ujigami-jinja Shrine

— 外国人に対しても日本人に対しても理解可能なC案を推奨する。

*ローマ字はヘボン式とする。

*財団法人 都市づくりパブリックセンター
「歩行者のためのコミュニティサイン」(H5)

A. ウジガミシュラインハドコデスカ?



尋ねられた日本人は質問の意味がわからないことがある。

B./C. ウジガミジンジャハドコデスカ?



ローマ字の情報をもとに、人(日本人)に尋ねることが出来る。

情報計画

3) 表記の基準

使用書体, 使用ピクトグラム, その他の記号

使用書体	使用ピクトグラム	参考となる記号
------	----------	---------

サインには判読性の高い書体を使用する。

- 以下に標準的な文字の太さ (Medium) の書体を示す。使用する文字の大きさ等に応じて、太い(Bold)・細い(Regular)を使い分け、判読性を高める。
- 日本語については視認性の高いUD(ユニバーサルデザイン)フォントの使用を推奨する。

日本語書体例

A-OTF新ゴPro	Medium	観光都市・宇治のブランドカ
A-OTF UD新ゴ Pro	Medium	観光都市・宇治のブランドカ

英語書体例

Helvetica ヘルベチカ	Medium	ABCD fghijk 012345/,.
Univers ユニバース	55 Roman	ABCD fghijk 012345/,.
Frutiger フルティガー	55 Roman	ABCD fghijk 012345/,.

書体選定のポイント

- 可読性； 文章、文字列としての読みやすさ
- 視認性； 文字を明確に視認できる見易さ
- 識別性； 他の文字と判別でき、誤認しないわかりやすさ

JIS案内用図記号を使用する



* JIS記号ではない
etc. 宇治らしいオリジナルのピクトグラムが必要かどうか要検討

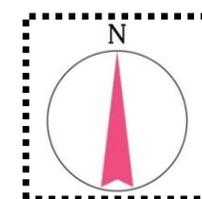
●宇治茶かおり回廊のピクト



●Green Map Uji



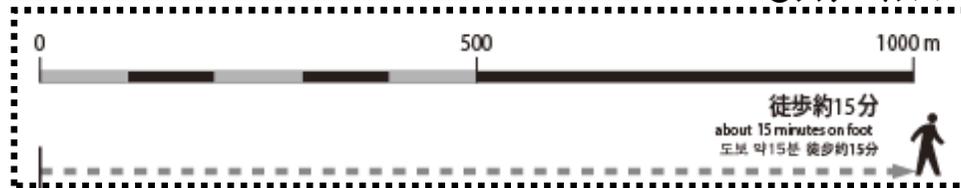
●方位記号



●現在地記号



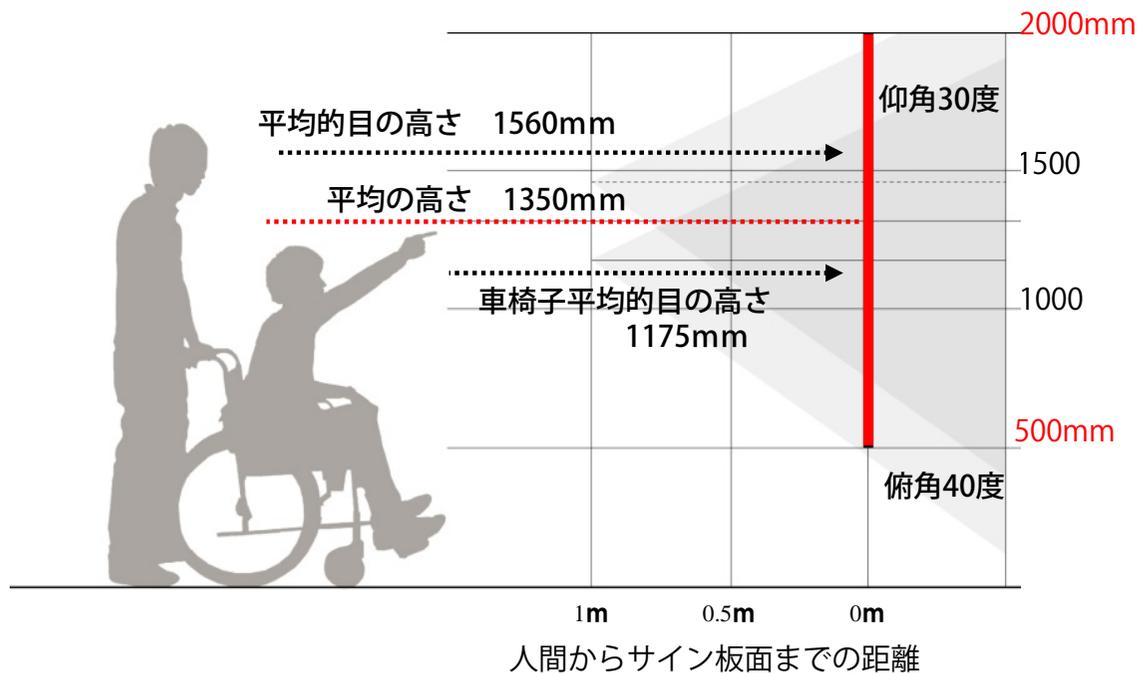
●スケールバー



掲出位置の基準

表示の掲出高さ（見易さの視点）

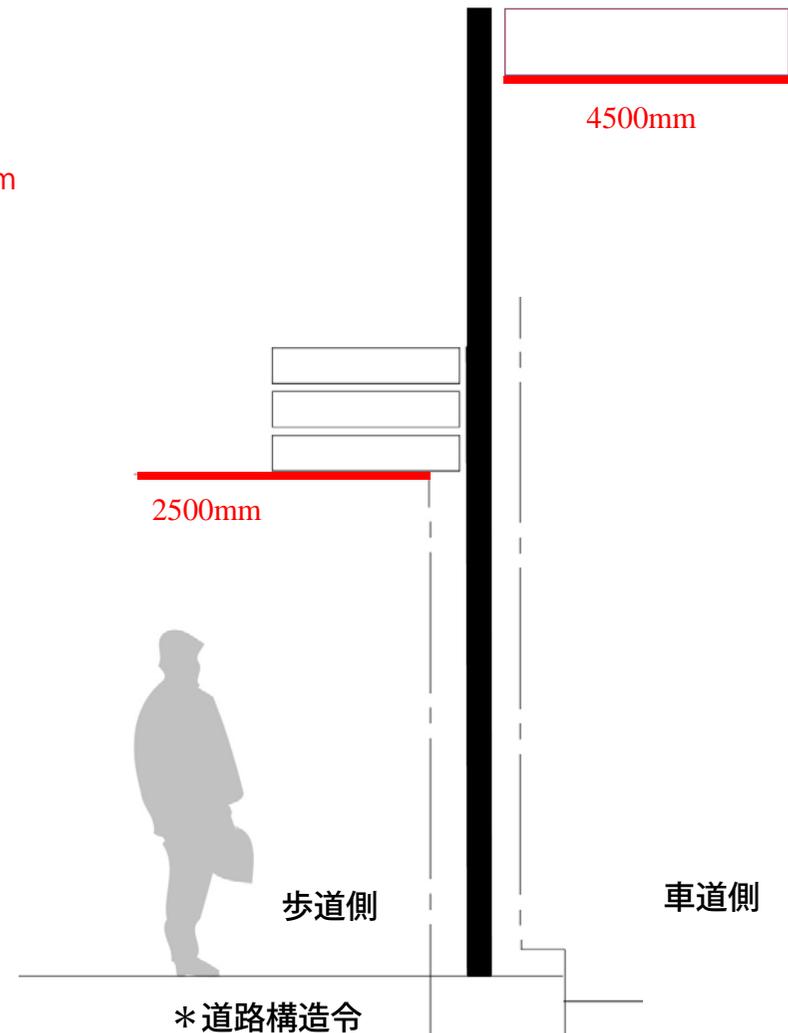
案内サインの掲出高さは、地面から1350mmを中心に、
最高高さを**2000mm**
最低高さを**500mm**の範囲を原則とする



*公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン
(国土交通省 H19)

表示の掲出高さ（道路構造令より）

誘導サインなど、
歩道側のサイン板面は下端を地面から**2500mm**以上に設置する
車道側のサイン板面は下端を地面から**4500mm**以上に設置する

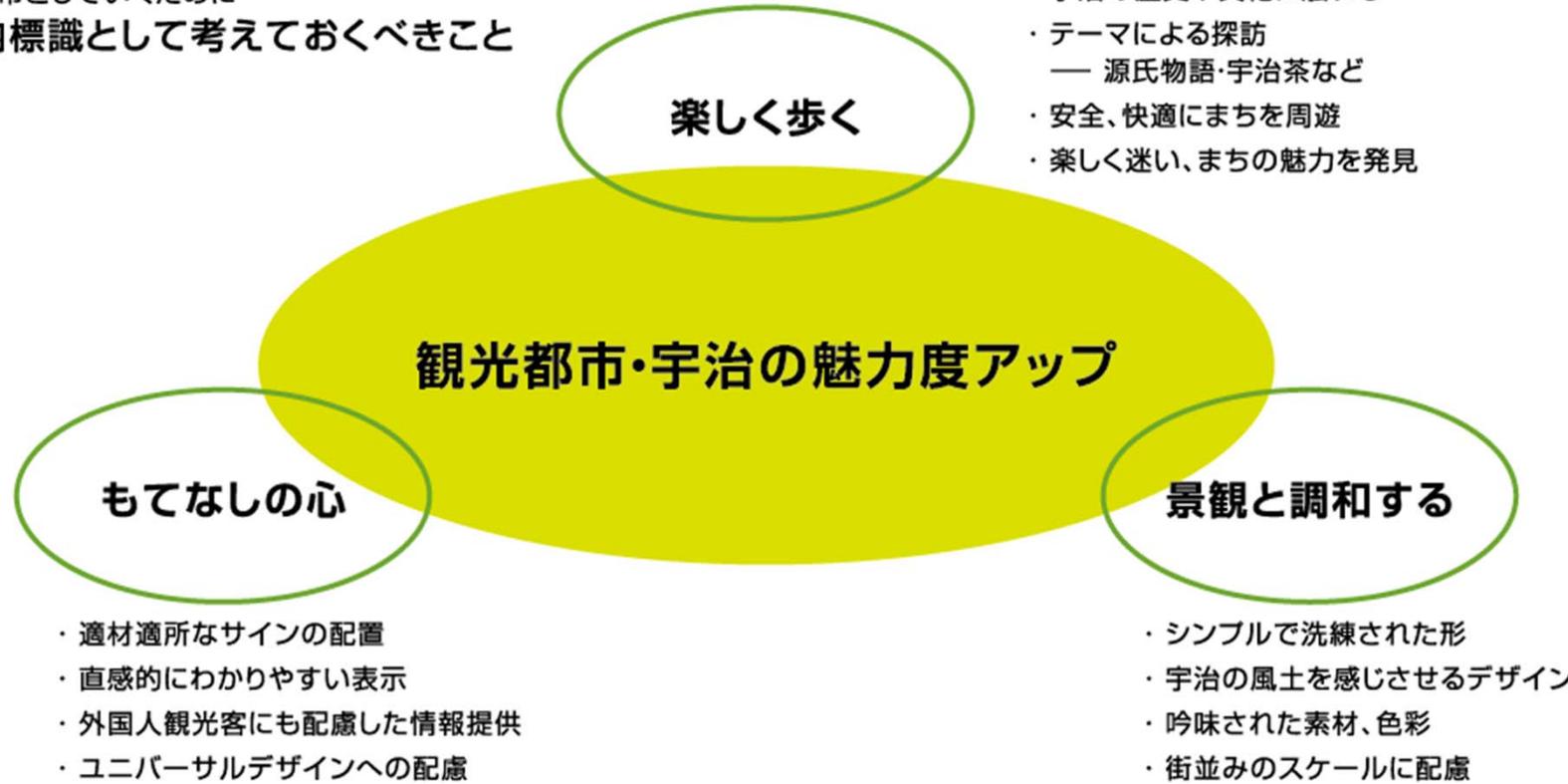


4. デザイン

1) 基本的な考え方

観光都市宇治のブランド力を高め
魅力ある都市としていくために
観光案内標識として考えておくべきこと

- ・ 宇治の歴史や文化に触れる
- ・ テーマによる探訪
— 源氏物語・宇治茶など
- ・ 安全、快適にまちを周遊
- ・ 楽しく迷い、まちの魅力を発見



実現するための

手法
How to



現状維持



撤去



リノベーション

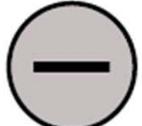


新規

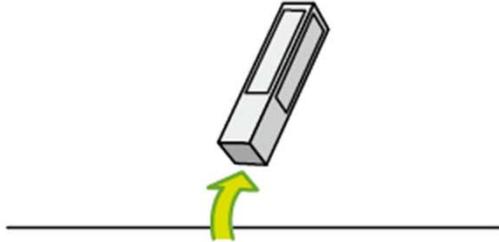
デザイン

2) 整備手法

STEP 1



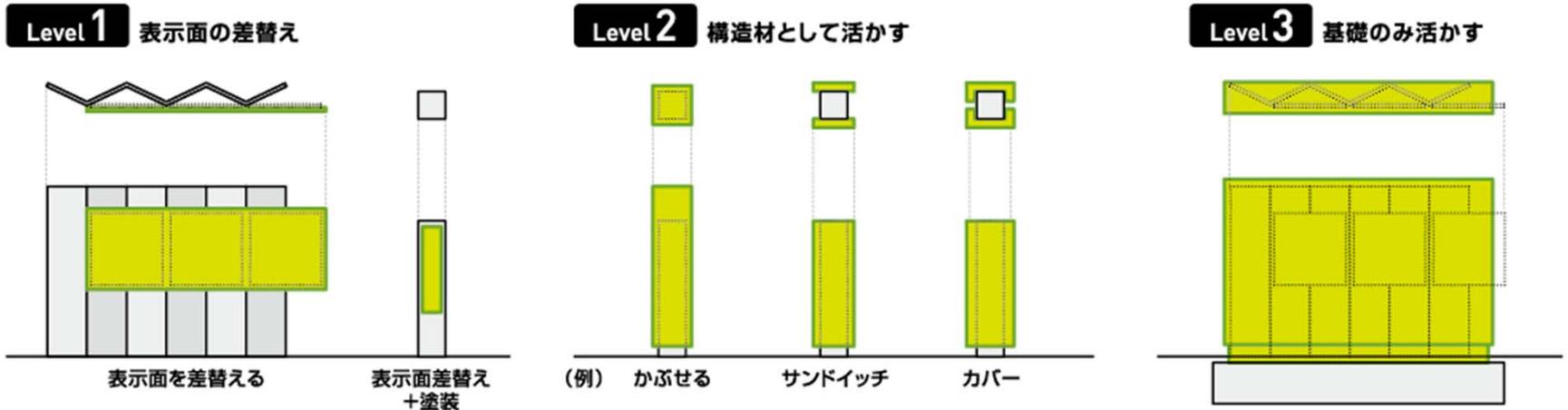
撤去



STEP 2



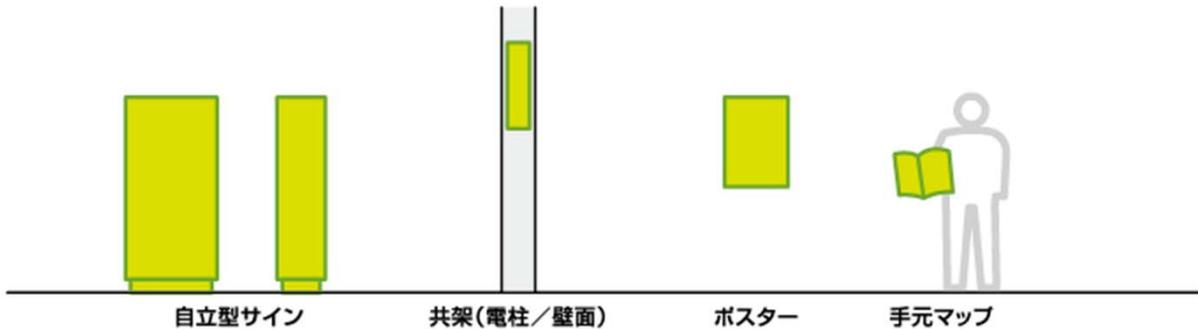
リノベーション



STEP 3



新規



デザイン

3) 整備の方向性



デザイン

3) 整備の方向性

案内サイン一体型



矢羽根型



短冊型



宇治らしいデザイン

- ・ 景観に融合し、素材感のあるデザイン
- ・ シンプルな形状
- ・ ヒューマンスケール

大きい

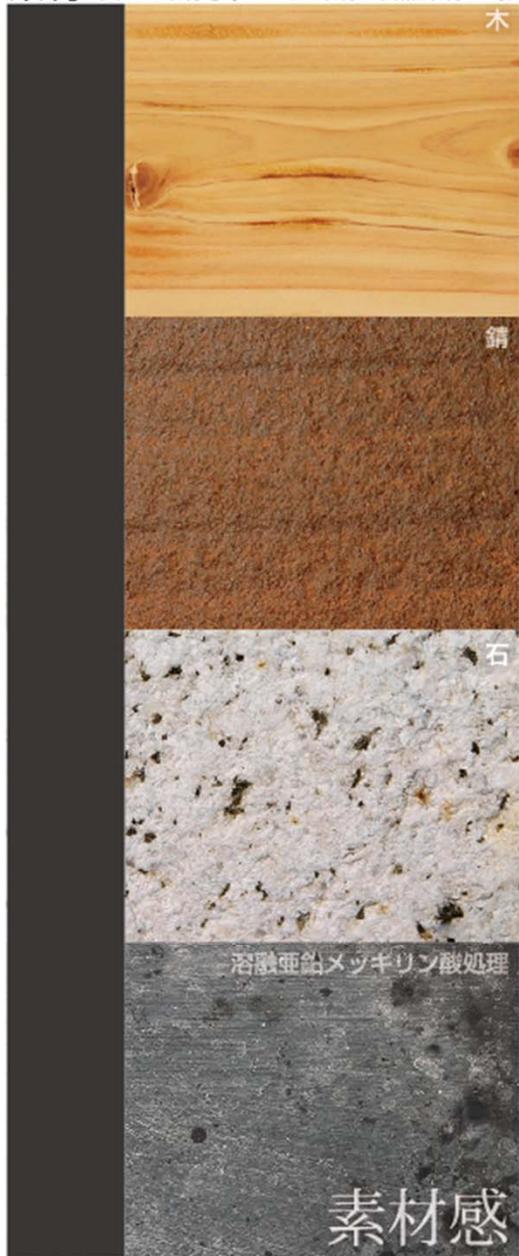


小さい

デザイン

3) 整備の方向性 - 宇治らしいデザイン

素材 美しい素材感(ex.人工素材と自然素材の対比)



形 シンプルで飽きのこない洗練された形



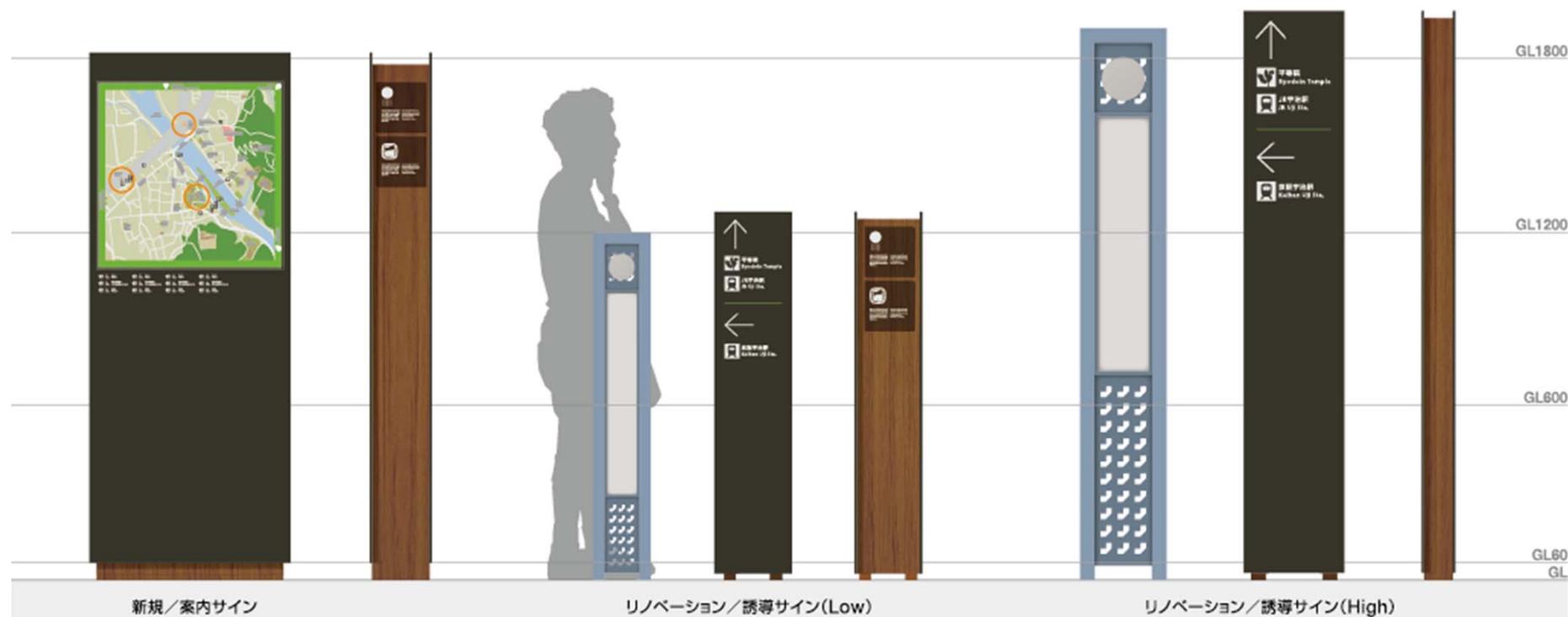
大きさ 街並みになじむヒューマンスケールな大きさ



4) デザイン案

A. Sandwich Standard

- 筐体柱を板面ではさんだ、シンプルでモダンなサイン筐体。
- 厚みのある筐体で、側面に世界遺産やお茶の京都などを記すことが可能。
- 木と金属板の組合せで、馴染みやすさとクールさを融合。

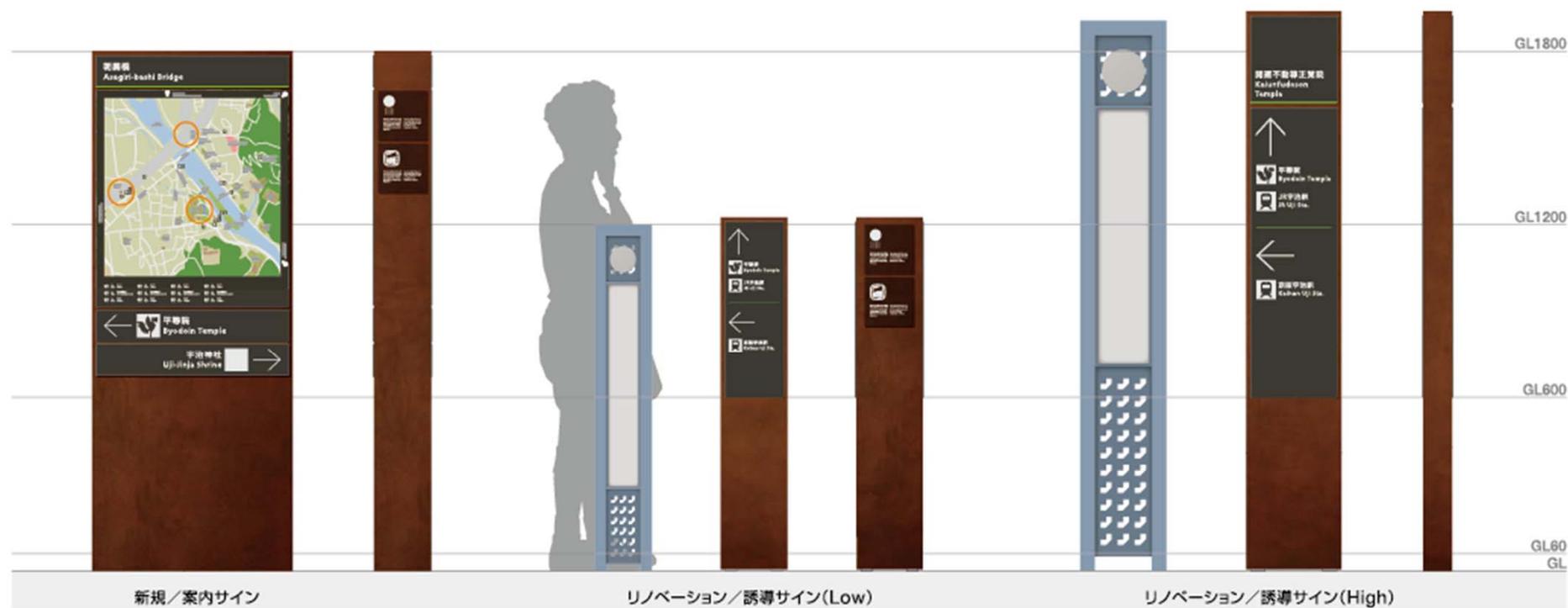
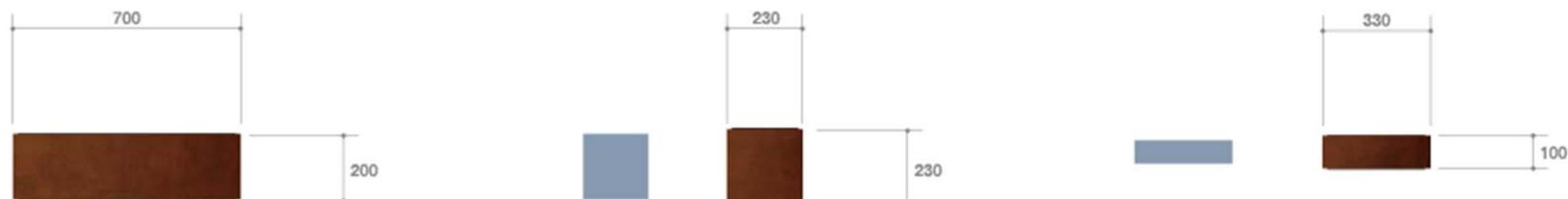


デザイン

4) デザイン案

B. Tea Box

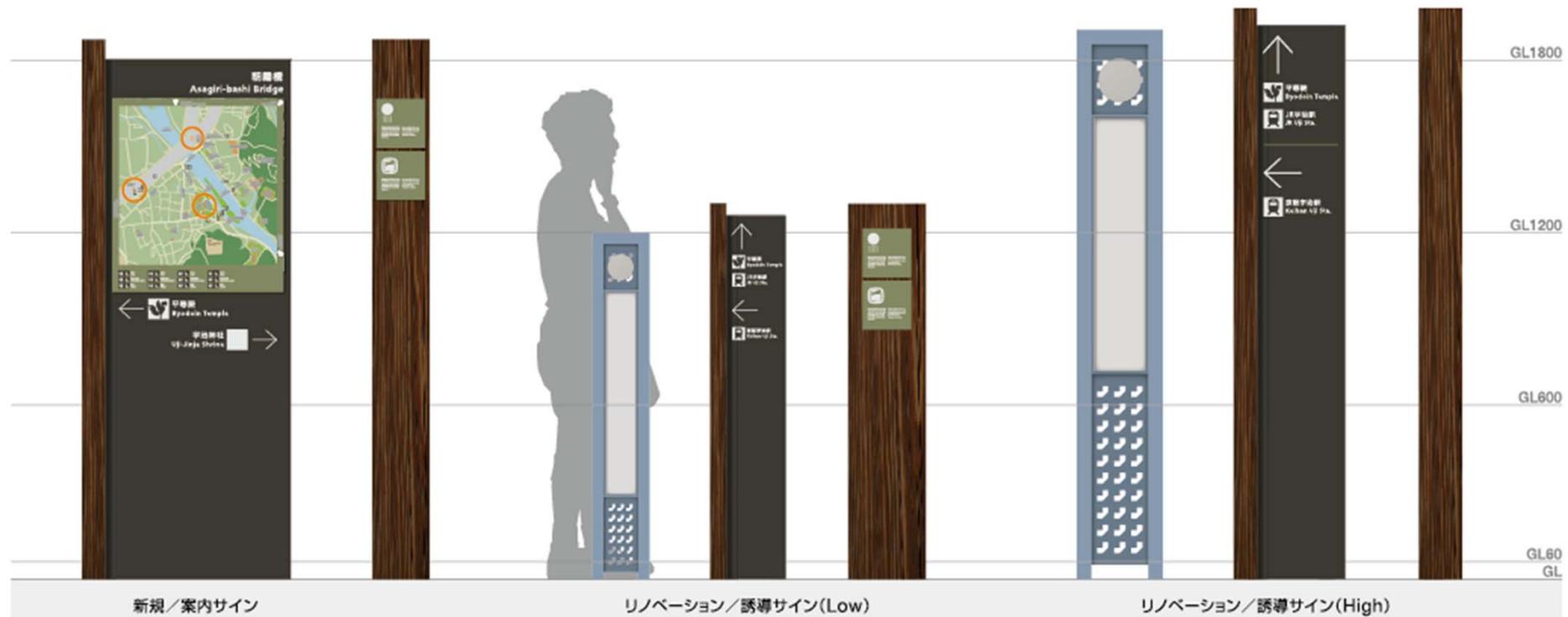
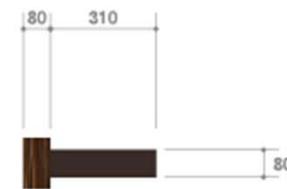
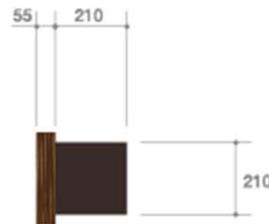
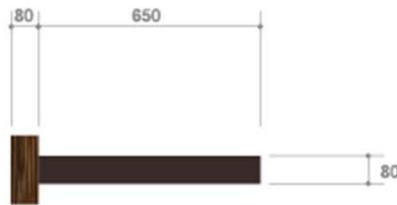
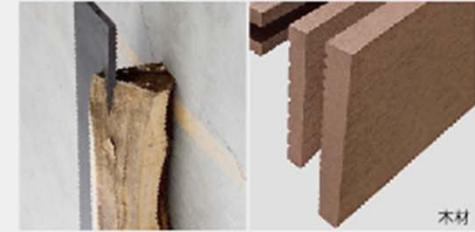
- 茶箱をモチーフに奥行のある筐体。
- 箱の上から貼り紙を貼る方法にならい、表示面を筐体に貼り更新性を考慮。
- 加工のしやすさや耐久性を考慮し、筐体(箱)は金属板の錆塗装仕上げとした。
- 錆塗装仕上げにすることで、経年変化で味わい深く。



4) デザイン案

C. Icon Material

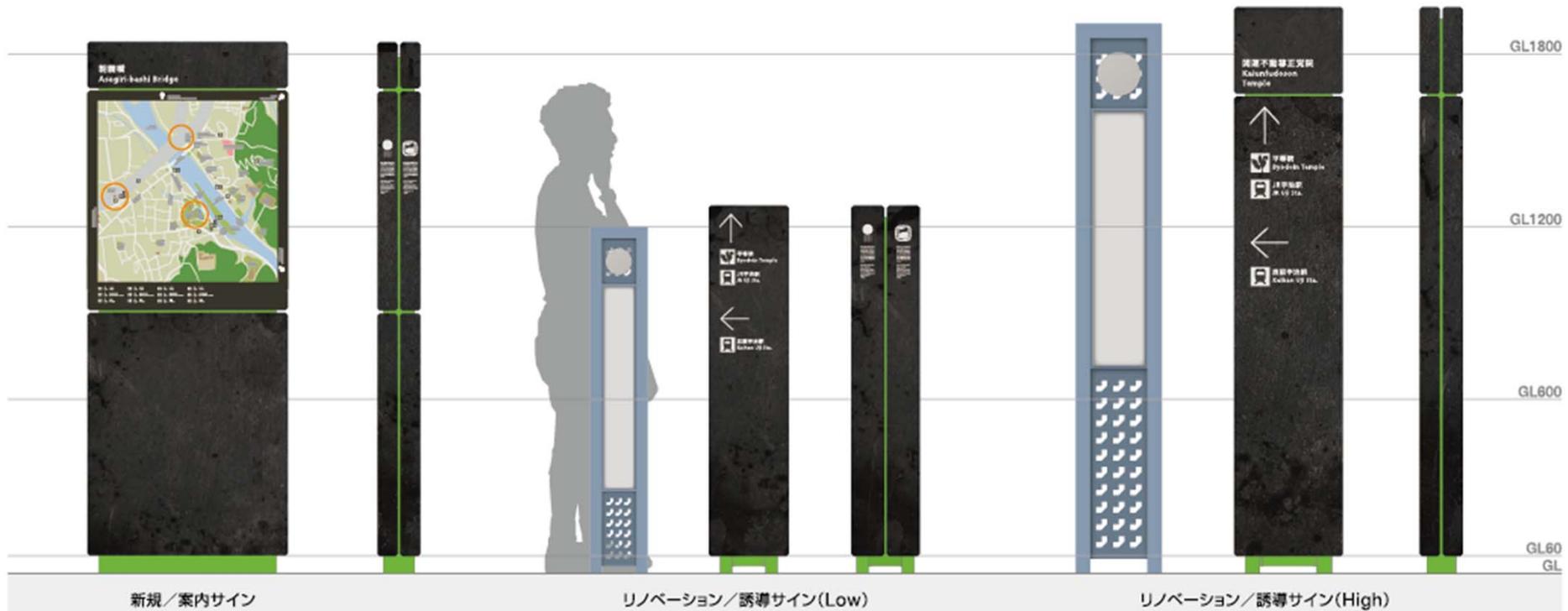
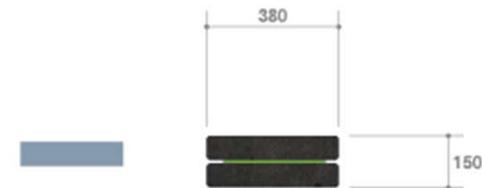
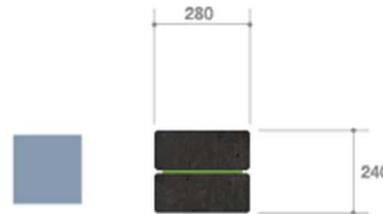
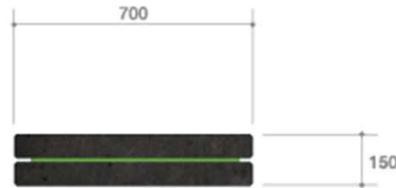
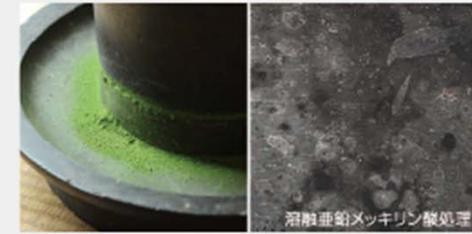
- 素材を塊で見せ、サインのアイコンをつくる。
- 素材を柱、表示を面にして展開。
- 厚みのある木材で表示面に負けない、ボリューム感を出す。(木材の詳細は要検討)



4) デザイン案

D. Green Slit

- 鮮やかなグリーンをスリットでみせる
- 溶融亜鉛メッキリン酸処理(濃グレー)にすることで、素材感を演出。



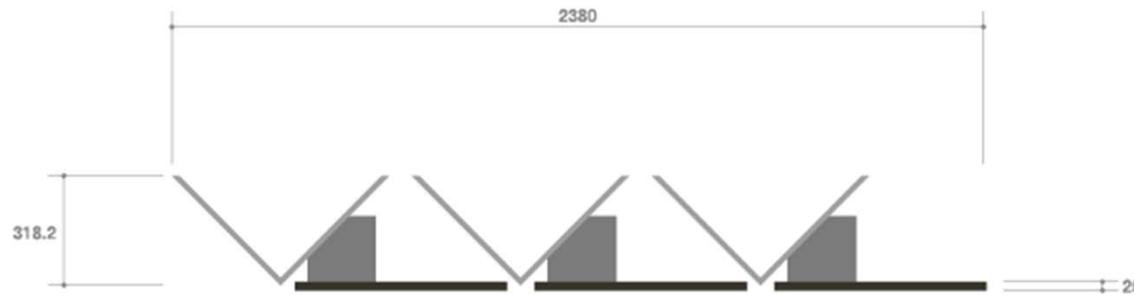
5) リノベーションデザイン

現状

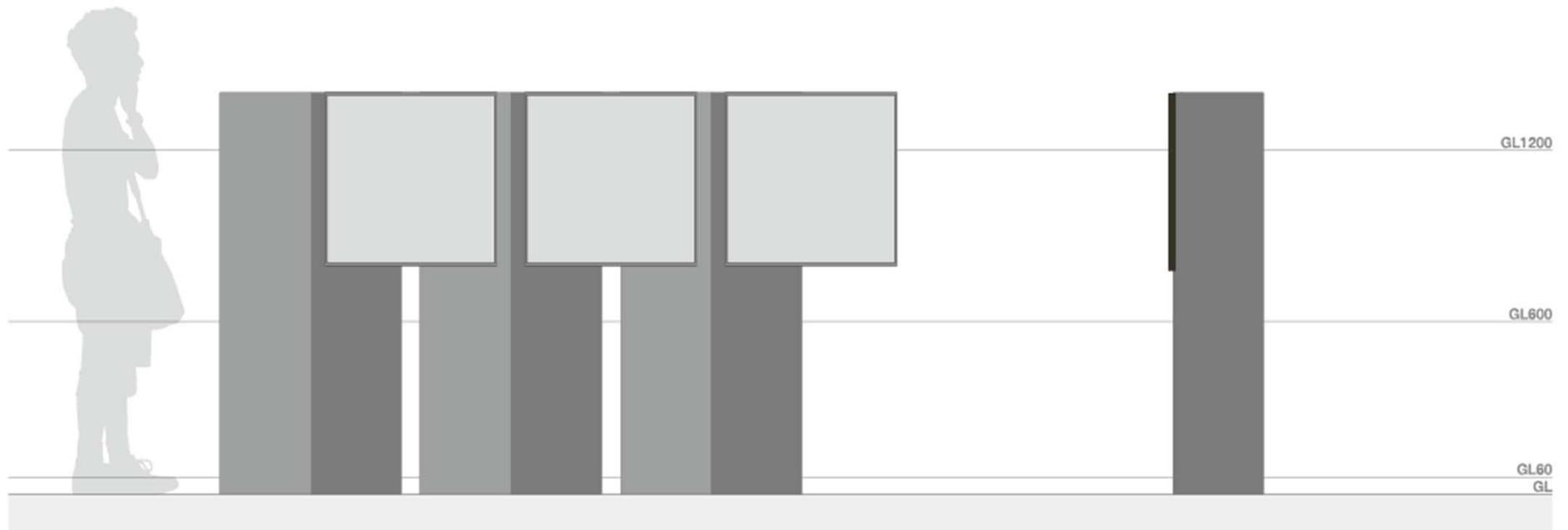
- 基礎と筐体はアンカーで止まっているため取り外すことも可能。
- 屏風部分は厚み15mmのアルミ板で大変重厚。



現状



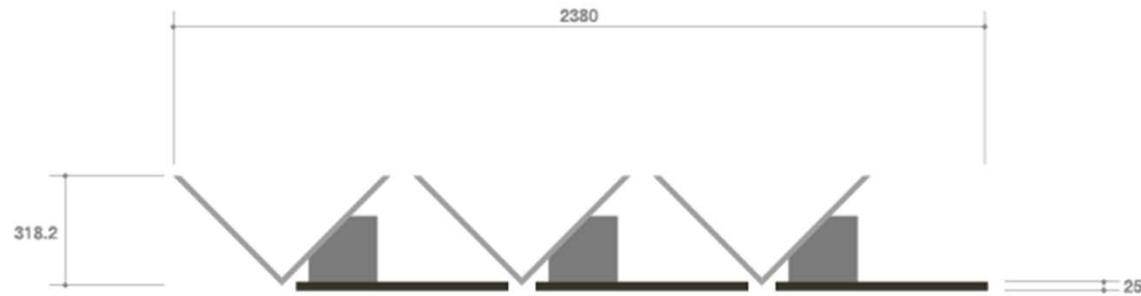
GL1800



5) リノベーションデザイン

1. 表示面のみ更新

- 既存の筐体をそのまま生かし、表示面のみ更新する。
- 筐体は塗り直しなども行い、色合いで新サインとの足並みをそろえる。



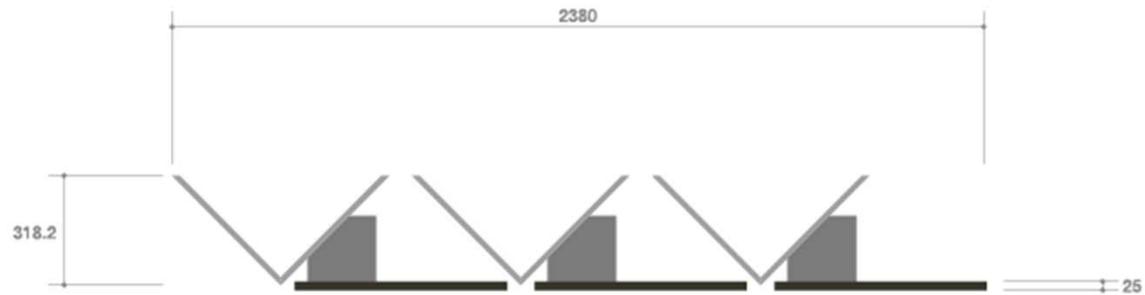
GL1800



5) リノベーションデザイン

2. タテ長の表示面

- 表示板面をタテ長にして、新サインとカタチの印象を近づける。
- 表示面を若干高くすることで、見やすい位置に表示がくるようにする。



GL1800

GL1200

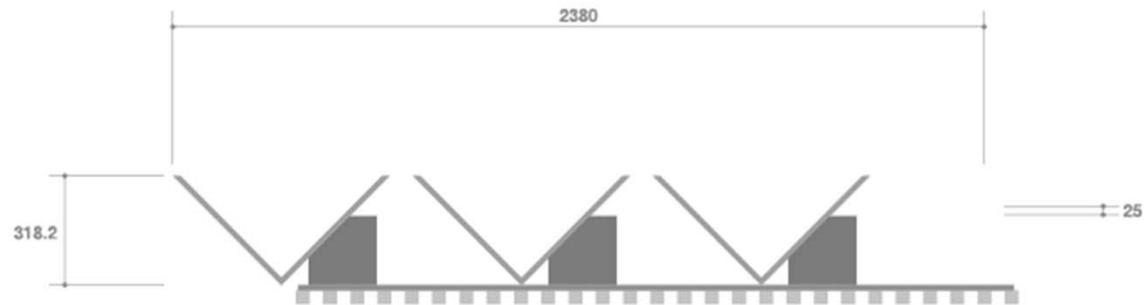
GL600

GL60
GL

5) リノベーションデザイン

4. 縦格子との組み合わせ

- 縦格子を用いて、日本らしさを演出。
- 屏風筐体は背景になるよう、縦格子と塗り分ける。



GL1800



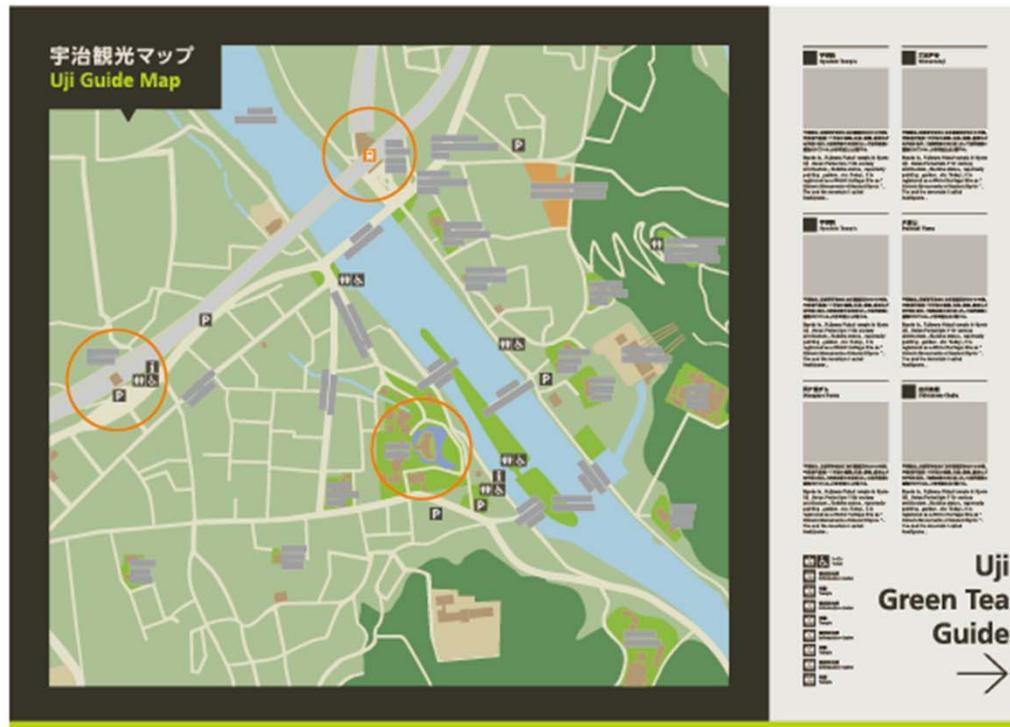
デザイン

6) 表示デザイン

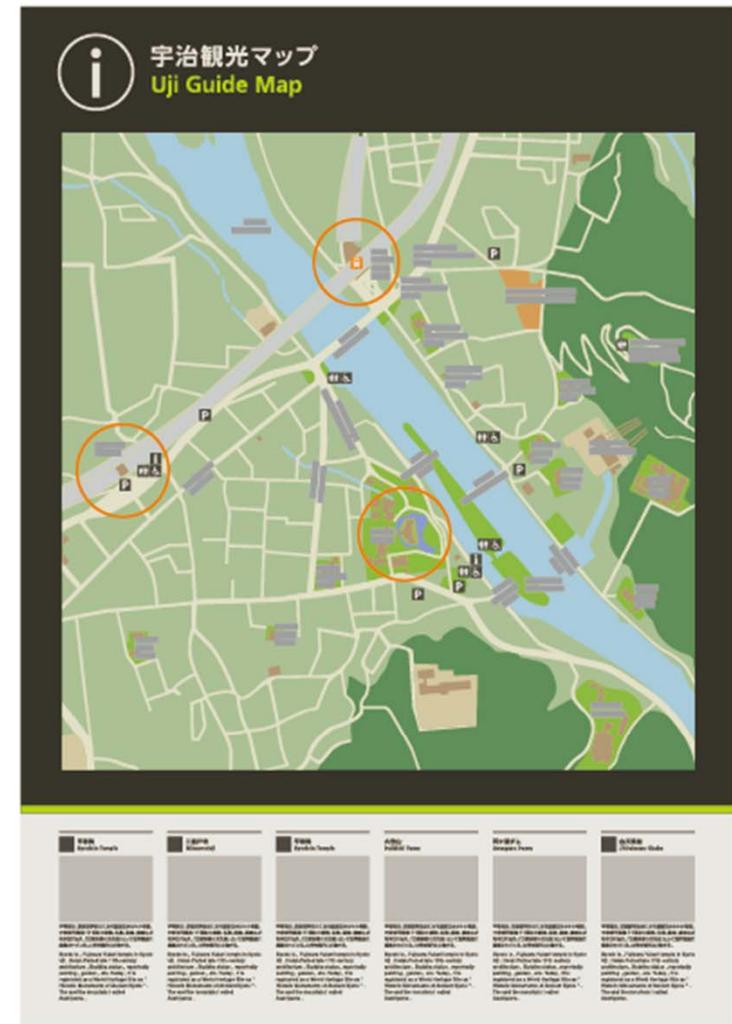
寂・渋・モダン

- 寂や渋などを連想させる深みのある濃灰色に鮮やかな緑を指し色にした、日本モダン。
- 濃灰色が背景とを切り離し、文字やマップに目がいやすい。

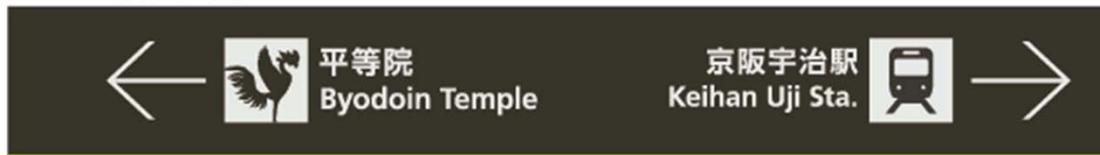
手元マップ(見開きイメージ)



ポスター(イメージ)



誘導サイン(例)



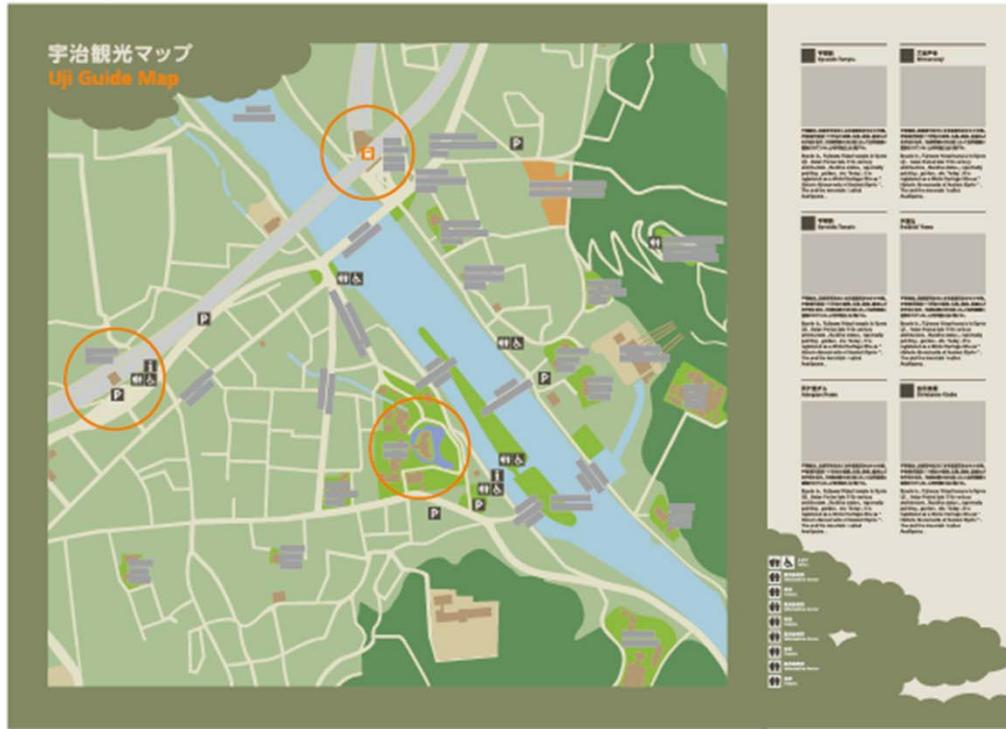
デザイン

6) 表示デザイン

のどか・和やか・雅

- まろやかな色味で、のどかさやなごやかさを感じさせるカラーリング
- やわらかな印象で、親しみやすい。

手元マップ(見開きイメージ)



ポスター(イメージ)



誘導サイン(例)



6) 表示デザイン - 外国語表記の検討

2カ国語

- ・日本語
- ・英語



4カ国語

- ・日本語
- ・英語
- ・簡体字
- ・韓国語



5カ国語

- ・日本語
- ・英語
- ・簡体字
- ・繁体字
- ・韓国語



5. モデル整備配置案

モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

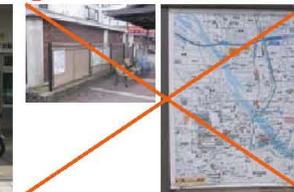
1 案内サイン→改修 (一体化、表示統一)



2



3 案内サイン→撤去



2 誘導サイン→改修 (表示の統一)



4 →移設+改修



6 →改修



1 解説サイン→撤去



2 →撤去



1 複合サイン→撤去



新 新規案内サイン



※ 表記がないものは存置とする



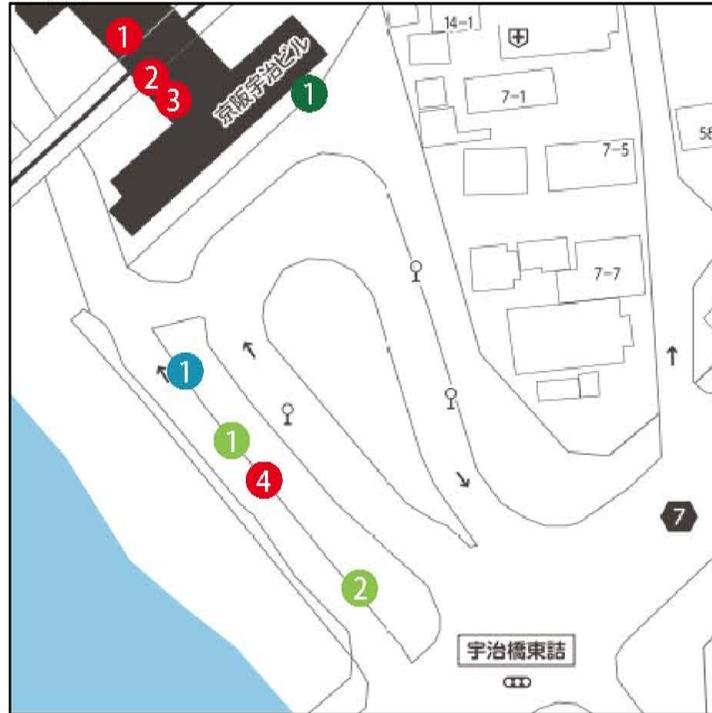
モデルプラン：JR宇治駅



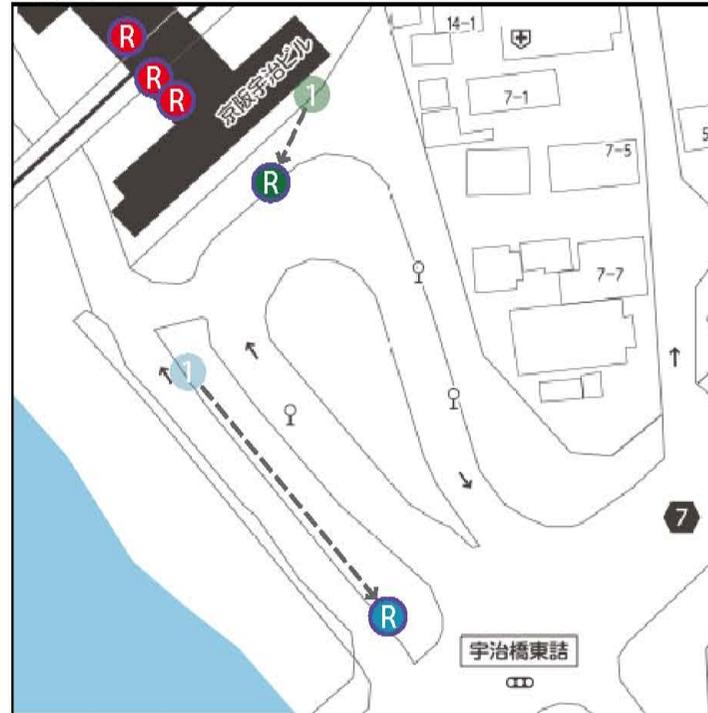
モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン (駅) → 改修 (表示の統一)



2 → 改修 (表示の統一)



3 → 改修 (表示の統一)



4 案内サイン → 撤去



1 誘導サイン → 移設 + 改修



1 複合サイン → 移設 + 改修



1 解説サイン → 撤去



2 (オリエンティングの案内) → 撤去
(※複合サインに集約)



※ 表記がないものは存置とする

地図表示の改修
オリエンティング
情報の記載



モデルプラン：京阪宇治駅



モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況

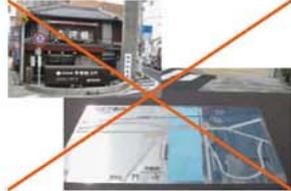


■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン→撤去



1 誘導サイン→撤去 3 →撤去



5 →改修 6 →撤去



8 →改修



1 複合サイン→改修



2 →改修



1 解説サイン→撤去 or 改修



2



3



4



1 記名サイン



※ 表記がないものは存置とする

モデルプラン：宇治橋西詰

モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新



※ 表記がないものは存置とする

6. 運用計画

